

令和2年6月12日

医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業
e-ASIA 共同研究プログラム
事後評価コメント

研究開発課題名 染色体性薬剤耐性遺伝子を保持する薬剤耐性菌の分子疫学的解析
研究開発機関名 国立大学法人琉球大学
研究開発代表者名 平井 到

世界の医療上の喫緊の課題である薬剤耐性菌に関し、染色体性薬剤耐性遺伝子の検出法を独自に確立し、ベトナムとインドネシアの健常人を含む臨床分離薬剤耐性菌株から染色体性 B1aCTX-M の検出と性状解析を行い、これまで研究の進んでいなかった薬剤耐性遺伝子のプラスミドから染色体への移動の可能性を大きく示唆するなど、幅広い研究計画を精力的に進め優れた成果をあげている。また、ベトナム、インドネシアと良好な連携協力体制が構築され、3編の共著学術論文の報告に加えて、若手研究者の育成が積極的にされていることは高く評価できる。本研究開発で得られた解析法と知見は、我が国を含む世界の薬剤耐性菌対策に寄与する点で極めて重要である。

しかしながら、染色体上の薬剤耐性遺伝子が薬剤耐性菌の拡散にどのような役割を果たしているのかについては明確にできなかった。さらに、高次の耐性株解析のほとんどが日本で行われていたため、現地での解析を通じた技術移転が望まれる。

今後の研究開発の発展と共に CTX-M 型 ESBL 産生菌以外の他の薬剤耐性菌株の解析へのさらなる応用を期待する。

以上